

# 令和4年度学校自己評価システムシート (埼玉県立児玉高等学校)

目指す学校像	「授業」を大切にし、人間力(①目標に向かって努力する力②人と上手に関わる力③感情をコントロールする力)を育成することを通して、地域社会へ自信と自己肯定感を持った人材を輩出する学校
--------	---

重点目標	1 「授業」を大切にする学校 2 積極的に地域と関わる学校 3 非認知能力を身に付け、地域社会に貢献できる生徒を輩出する学校
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	自己肯定感と基礎学力の向上には、繰り返しの学習だけではなく「学びに向かう力」を育てる必要がある。 ICTの活用や、教授方法工夫によって、スモールステップで学力を向上させる取組を推進する必要がある。 中途退学者の減少に向け、学び直しへの更なる取組も大きな課題である。	学習意欲の向上と基礎学力の定着	①未来を拓く「学び」プロジェクト、ICTを活用した基礎学力の向上(通年) ②学習サポーターの活用や学び直しの充実(通年) ③各種検定受験の積極的な働きかけ(通年) ④ソーシャルスキルトレーニングの手法を活用したコミュニケーション能力等の向上(通年)	①研究授業の複数回実施 課題テストの結果の向上 ②生徒アンケート「わかりやすい授業」満足度70%以上 生徒アンケート「補習体制の充実」満足度80%以上 ③各種検定試験の受験率の向上 ④生徒アンケート結果満足度80%以上 生徒を対象としたソーシャルスキルトレーニング研修会の実施(1回以上)	①研究授業を3回実施 ②課題テストの結果 国語・数学概ね向上、英語2回目は向上 わかりやすい授業満足度74%、補習体制の充実満足度63% ③ほぼ100%で昨年比変化なし ④「個性や能力を伸ばせたか」満足度56% スクールカウンセラーを講師に研修会実施	B 基礎学力を高める「学び直し」と「学びに向かう力」など非認知能力の向上は新校においても重点的な課題である。 生徒1人1台端末の授業に備え、ICTを活用した教授方法の研修が必要である。
2	県民に来年度開校の児玉新校の特色や魅力を適切な時期に情報提供することが必要である。 本校の教育活動を効果的に情報発信し、地域社会・小・中学校との教育活動・交流事業等を充実させるなど、万全の感染症対策のもと開かれた学校づくりにさらに取り組み、新校の生徒募集につなげていく必要がある。	学校と地域社会、関係機関や地元小中学校、保護者等との連携強化	①地域への積極的な情報発信(通年) ②地域・PTA・後援会・同窓会との交流事業の推進(通年) ③児玉白楊高校と協力した児玉新校広報の充実	①HPのアクセス数の増加 保護者アンケート「情報提供を積極的に行っている」満足度70%以上 「児玉高校だより」の地域への配布(年4回以上) ②地元小中学校との交流事業の実施 公開講座4講座以上実施 PTA等の学校行事への参加回数昨年比増加 ③合同学校説明会等の複数回実施 新校の学校案内の円滑な配布	①分担が進み複数で更新業務が行えたが、更新回数は減少 「情報提供を積極的に行っている」満足度56% 「児玉高校だより」4回発行 ②長期休業中の公開講座2回実施、児玉小学校とのスポーツ交流コロナ等の影響で中止 児玉白楊高校とPTA合同研修会実施 ③6回の合同説明会等実施 ポスターの駅等への掲示、業者テストを受験する中学生へのチラシ配布2回実施	B 12月までの新校への志願者数を見ると、地域から新校への期待が高いとは言えない。従来の地道な広報に加えて、次年度は新校の魅力積極的にインパクトがある方法で広報する必要がある。
3	様々な課題がある生徒の指導方法に教育相談を取り入れ、生徒理解を深める必要がある。 目標を持ち進路実現に取り組む生徒は多いが、進路実現のためには、系統的、組織的に進路指導を行い、生徒が主体的に取組むよう更なる支援が必要である。 感染症対策を踏まえ、学校行事など様々な活動を通し、自己実現を支援する必要がある。	学校生活の充実と規範意識の向上	①生活習慣・規範意識の確立 ②安心で落ち着いた学習環境の整備(通年) ③スクールカウンセラー等を活用した教育相談の充実(必要時) ④学校行事・部活動の活性化(通年)	①学年集会・全校集会の課業月に実施 遅刻率(1・2学期)の昨年度比減少 ②生徒アンケート「学校や日常生活について」満足度80%以上 ③生徒アンケートの満足度70%以上 ④生徒アンケート「学校行事が充実」満足度80%以上 部活動加入率昨年比増及び大会等の成果向上	①各種集会で指導のほか、登校指導を毎月実施したが2・3年生の昨年比で減少していない。 ②「学校が楽しい」満足度83% ③教育相談の満足度40% ④「学校行事が充実」満足度63% 部活動加入率46%→40% 柔道女子団体、やり投げが関東大会出場	A 次年度基本的生活習慣の確立のため、学年集会等で生活指導を継続する必要がある。 コロナ禍から脱した後、学校行事や部活動の満足度を高める必要がある。 教育相談体制の満足度は昨年度より高かったが、不十分である。
		進路希望の実現	①進路指導部と学年の連携(通年) ②キャリア教育の観点に基づく体系的な進路指導(通年) ③就職支援アドバイザーの活用、外部機関との連携(通年) ④高大連携事業の積極的活用(通年)	①②生徒・保護者アンケート「進路指導はきめ細やか」満足度70%以上 一般常識テストの実施(4月・1月) ③就職先決定率の昨年比向上 外部を活用した進路ガイダンス(各学年1回以上実施) ④高大連携事業の実施回数昨年比増	①「進路指導はきめ細やか」満足度生徒63%保護者54% ②一般常識テスト2回実施 進路ガイダンス ③就職希望者の決定率100% ④コロナ禍で高大連携事業は未実施 新たに高大連携協定を締結	B 特別支援学校のセンター機能をさらに活用し生徒の様々な困難に対応する必要がある。 就職も進学も希望しない生徒への適切な指導が大きな課題である。

学校関係者評価
実施日 令和5年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の遅刻を減らすことで、授業が良く分かり学力向上につながる。</li> <li>・学び直しを継続する必要がある。時を守る、礼を正すという人としての基本について指導が必要である。</li> <li>・個々の教員が指導の目標をどのように立てて指導を行うかが学力の向上に大きく作用するのでしっかりやって欲しい。</li> <li>・「児玉高校だより」の配布を増やしたらどうか。例えば児玉郡市の行政に依頼して配布を拡大できれば生徒募集にも期待できる。</li> <li>・体育祭について生徒が企画する形にすればより楽しい行事になるのではないか。</li> <li>・来年度新校になるので地元の学校として大きく期待している。</li> <li>・指導にあたっては一人一人の生徒に声をかけ、励まし見守る姿勢こそ必要である。</li> <li>・学校全体で生徒のためにあらゆる努力をしている。新校でも引き続き尽力してもらいたい。</li> <li>・懇話会では、語彙力向上のために読書の時間を設定することの希望や、遅刻を減らす取組をしたいなど現状をなんとかしたい生徒の思いが伝わった。</li> <li>・進路に目的意識がない生徒については、高校の問題だけではなく、小・中学校からのキャリア教育が重要である。</li> </ul>